

段落のつながりをとらえながら読もう

～不思議発見！助け合う生き物リーフレット交流会～

山岡 真美 教諭

4年 「ヤドカリとイソギンチャク」(東京書籍)

今年度2回目の研究授業が、5月24日に行われました。前回の6年生の授業に引き続き「読む」の領域の説明文でした。全10時間扱いの単元で、公開授業は6時間目でしたが、1時間目の授業を少し紹介したいと思います。単元構想を考えた時に、1時間目の授業で子供たちをどう主体的な学びに持って行くか考えたいと思います。私自身、すごく悩むところなのですが、今回1時間目の授業を見せていただいて、この授業でおさえられないポイントがわかりやすく、たくさんのことを学ばせて頂きました。

1時間目の板書

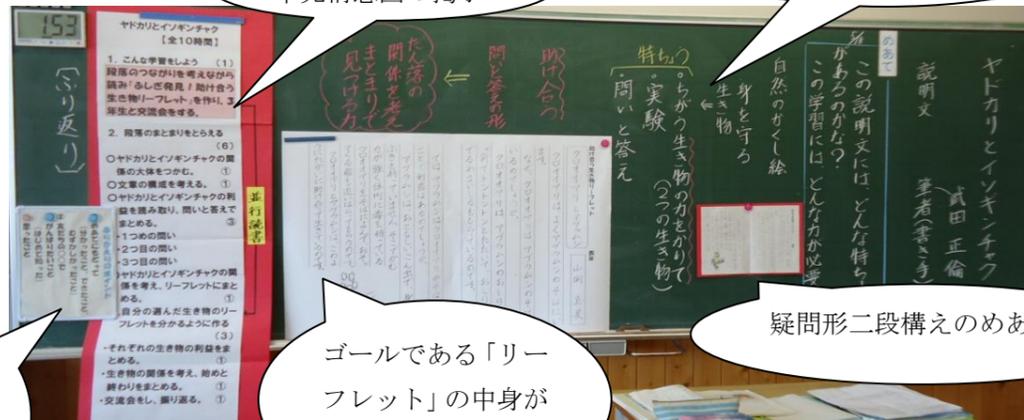
単元構想図の掲示

前学年の既習の内容

疑問形二段構えのめあて

振り返りの視点の掲示

ゴールである「リーフレット」の中身が分かる拡大掲示



この前の研究授業のあとの事後研で明らかになっためあての工夫が早速なされていました。

めあて：「この説明文には、どんな特ちょうがあるのかな？」

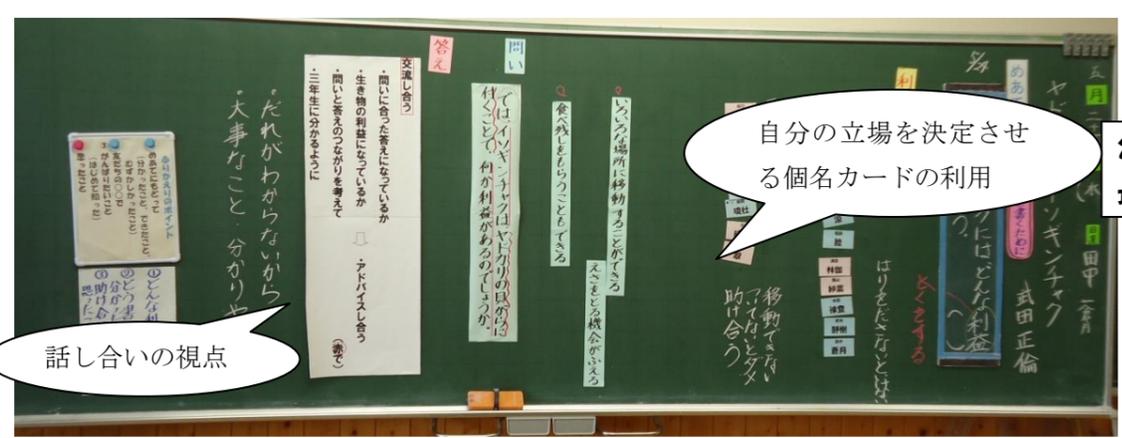
この学習にはどんな力が必要かな？」

その日の振り返りです。

ふうや：「特ちょうは、生き物の力をかりて実験と問いと答えで、だん落の関係を考えままとまりで見つける力をがんばりたいです。ぼくは水の中の二つの生き物について書きたいです。」

まこと：「ヤドカリとイソギンチャクの学習では、他の説明文とはちがう、生き物の力をかりて助け合ったり、実験をしていたりして、問いと答えを文にかくとわかりその特ちょうを使ってだん落の関係を考えままとまりで見つける力をつけたいです。たくさん本を読み生き物のかんけいをしらべたいです。」

子どものノートに、この授業で狙っていたことがしっかり書かれてありました。振り返りに「～したい」がいっぱいあるということは、この1時間が単元を通しての「主体的な学び」につながっていることがよく分かります。子ども自身にこの単元でどんな力を付けていくのかを明確にすることに加えて、子ども自身のこれまでの学びを振り返ることで課題の設定が主体的なものとなり、そのことが深く学んでいこうとする態度を育てることにつながると分かりました。 山岡先生 ありがとうございます。



話し合いの視点

自分の立場を決定させる個人カードの利用

公開授業の最終板書



研究協議より

○利益が2つなのか3つなのか、自分の立場を決め黒板に個人カードを貼った。
→自分の意見を持つことで主体的に発言・全体で語り合う姿・・・主体的な学びを実現させるよい手立て
▼利益の数にこだわり過ぎていたので、もっと文章に戻って考えさせることが大事ではないか。

▼問いとめあてが似ていたため、問いが2回出てきて戻り感があった。→めあての代案
・主語をかくして 提示する方法 ・2段構えで

☆対話の後のノートの残しかたをどうするか

→☑「話すこと・聞くこと」でメモをとるように、友だちからのアドバイスを残していくことが大切。

吹き出しの形でいいので、全教科を通して取り組んでいくこと
ノートにどれだけ変容が書かれているかが大切

☆予習はどこまで？

▼利益が分かるところに線を引いてくる予習であったが、全部の文に線を引いてしまう児童もいる。
・予習したことをノートに書いてあれば時間短縮につながる→予習をもとに交流し合うところから授業に。
・やれることは家でやってこらせる・書かせてくる→学校はそれをもとに友だちと学び合える場に

指導主事より

・この単元では「問い」と「答え」の関係性が大切。問いに対して答えをどこまでこたえさせるかは分量等を具体的に示してあげる。(例えば50字以内とか3行でとか) そうすれば見通しを持って進める。
・「3年生に伝える」という目的意識を持って→詳しいと分かりやすい？短く簡単にまとめると分かりやすい？なぜ問いと答えにするかという問いと答えの形にした方がより3年生に伝わるから
・前時で学習した「まとまり1」と「まとまり2」の問いと答えを拡大掲示するとやり方を参考にできた。
・本時では、前時でやった2時間分を生かして「まとまり3」を自力解決させるという流れで学習させると第3次で並行読書を使っても自力解決ができる。問いと答えを自分の力で作っていくために必要な情報をアレンジしてまとめていく力を付けていくことが大切。授業の中でレベルアップを狙わないといけない。